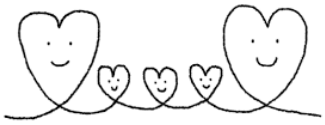

100 点の親じゃないからつながれる

園長　野中　泉

「こんなこと言うとダメなのかもしれませんが、正直に言うと、もう娘にムカついています」そうため息まじりに懇談会で話し始めたのは、ばなな組（2 歳児クラス）のひとりのお母さんです。イヤイヤ期真っただ中、朝も夜もことあるごとにてこずらせる娘さんとのエピソードに、大きくうなずく参加者たち。わかるわかるという共感がその場を温かく包みます。

別のお母さんは「できるだけ、子どもの気持ちを尊重したい、あまりダメ、ダメ言いたくないんですけど、お風呂に入る入らないで毎回時間がかかって困っています」と話します。「20 分おきくらいに『お風呂入ろうか』と誘っても『イヤ』、1 時間半くらい頑張っても入らないので諦めて寝ようとしたら、今度はお風呂に入ると言い出して、入ったら入ったで 1 時間くらいお風呂から出ないんです。どうしたらいいんでしょう？」。こちらも、うちもうちもとうなずく保護者がたくさんいました。「うちも、お風呂に入ろうというと、必ず『イヤ』というんでうけど、今はお風呂で遊ぶおままごとでカレーをつくるのにはまっているので、お風呂に入ろうとは言わずに、カレー作ろうかというと、案外すんなり入ってくれることもあります」そうアドバイスしてくれたのは、「ムカついています」とため息をついたお母さんです。

次は、「うちはかんしゃくがひどくて、スーパーなんかでもひっくり返って泣かれると、人目も気になるし、ひとりめなんで、うちの子おかしいのかなとか心配にもなるし」と不安げなお母さん。でも、私が「スーパーで子どもにひっくり返って泣かれたことがある人」と聞くと、やっぱり車座になった保護者の 10 人くらいが手を挙げて、そのお母さんも「うちだけじゃないんですね」と、ちょっとほっとしたように笑顔を見せてくれました。あるお父さんは、我が子に望むこととして「自由にのびのびと育ってほしい」と言った後に「今、言いながら自分は家で息子に案外細かいことでダメダメ言ってる。自分自身が親として矛盾してるなと思っちゃいました」と発言。こんないくつもの正直な場面に出会う度に、やっぱりアトムの懇談会はいいなぁと思います。

その前日のみかん組（5 歳児クラス）の懇談会では、子どもの名前の由来について聞かせてもらいました。「お父さんの名前から一文字と、人と人をつなぐという意味のある漢字を合わせました」「主人とつきあっていた頃に、デートで偶然知った名前が気に入って、いつか子どもが生まれたらこの名前をつけたいねと話をしてたんです」「亡くなった兄の名前の漢字を一文字使いたくて」などなど。「実はドライブしていた時に主人が見つけた喫茶店の名前で、だから由来はないんです」なんて笑い話もありましたが、いつも何気なく呼んでいる名前のひとつひとつにエピソードがあり、当然ですが、ひとりひとりの未来に親の願いが込められていたことを、みんなで思い出し、共有する。こちらも温かい一年のはじまりでした。

それにしても、生まれた瞬間はあんなにかわいいと思った我が子なのに、子育ては、想像以上に「うまくいかない」ことの連続ですよね。夜寝てくれない、おっぱいを飲まない、離乳食を食べてくれないなど、子育ての挫折は案外すぐにやってきます。その後も、歩かない、言葉が遅い、言うことを聞かない、癇癪をおこす。それだけでも心配なのに、友だちを噛んだり、ひっかいたりしたなどと保育園で聞かされたら、「なんで、うちの子ばっかり」と親としての自信もなくなってしまいます。子どもを産む前は「優しい、いいお母さんになりたい」と誰もが願ったはずなのに、いつの間にか子どもに大声で怒鳴ったり、時には手を挙げてしまう母になってしまった。この苦しさから抜け出る道はどこにあるのかと悩んでいるお母さんは、実はたくさんいます。でも、その苦しさを救う答えは育児書やネットの子育て情報には残念ながら書いていないのです。

一方で、懇談会でたまたま隣に座ったお母さんが、自分と同じように悩んだり泣きたくなったりしながら子育てに奮闘していることを知る、たったそれだけのことが母たちを「100 点の親である呪縛」から解き放ってくれる、そんな場面に私は何度も出会ってきました。ばなな組の懇談会では「うちの子が何人ものお友達を噛んでしまって、申し訳ありません」と声をつまらせ頭を下げたお母さんもいました。何人もの保護者が思わず一緒に目を潤ませたのは、彼女の苦しみは明日は(昨日は)私のものかもしれないと、みんながわかっているからだと、そう感じました。